

Ⅱ 中期目標ごとの自己評価

1 教育に関する目標(大項目)

(1) 中項目 1 「教育の成果等に関する目標」の達成状況分析

① 小項目の分析

○小項目 1 「(教育成果の検証) 教育目標に基づき本学が提供する教養教育・専門教育の成果を多面的に検証する。」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画 1-1 「教育成果の基礎評価として、単位修得状況、進級・卒業状況、資格取得状況、学位取得状況、進路・就職状況などについて点検評価を行い、その向上に努める。」に係る状況

教育成果の基礎的なデータ(成績評価、定期試験等試験成績、進級・卒業状況、資格取得状況、学位取得状況等)は、入試関連データや就職関連データとともに、毎年、一元的にデータベース化され、全学及び学部の教務委員会や学生委員会等で、点検・評価されている。

本学では目的に掲げる「4つの力」(感じる力、考える力、生きる力、コミュニケーション力)を推進するため、PBL教育の推進や、独自にカスタマイズしたeラーニングシステム「三重大学 Moodle (ムードル)」を整備するほか、各種アンケートによる教育改善、補習教育、修学・生活・健康支援、就職支援強化等を実施し、教育成果の向上に努めている。

本学の卒業・修了率(修業年限どおりの卒業・修了者の割合)や、就職・進学率(就職・進学希望者に対する就職・進学者の割合)は、いわゆる2008(H20)年秋以降のリーマンショックによる影響を加味したとしても、毎年、高い割合を示しており、教育の成果が上がっている。また、各学部・研究科の資格取得状況も良好であり、それぞれの専門性に沿った成果が上がっている(資料A-1-1-①, ②, ③, ④)。

資料 A-1-1-① 修業年限通りの学部卒業率・大学院修了率

年度	学部			大学院(修士、博士前期課程)		
	入学者数	卒業者数	卒業率(%)	入学者数	修了者数	修了率(%)
16	1,427	1,203	84.3	442	393	88.9
17	1,463	1,249	85.4	430	377	87.7
18	1,457	1,124	83.3	418	371	88.8
19	1,485	1,260	84.8	457	402	88.0
20	1,486	1,285	86.5	402	352	87.6
21	1,509	1,300	86.2	423	375	88.7

注：入学者数には、該当する卒業年度の3年次編入学者数を含む。

(出典：学務部調査資料)

資料 A-1-1-② 学部学生、大学院（修士・博士前期、博士・博士後期課程）生の就職状況

○卒業生の就職状況

区分 年度	学部 卒業生	卒業生の内訳				就職者	就 職 未定者	就職率 %
		就 職 希望者	進学者	臨 床 研修医	その他			
16	1,397	804	349	101	143	753	51	93.7
17	1,429	806	412	104	107	767	39	95.2
18	1,375	841	351	94	89	810	31	96.3
19	1,404	843	381	96	84	821	22	97.4
20	1,426	860	392	102	72	812	48	94.4
21	1,415	810	430	95	80	776	34	95.8

○修了生の就職状況

区分 年度	大学院 修了者	修了者の内訳			就職者	就 職 未定者	就職率 %
		就 職 希望者	進学者	その他			
16	486	420	17	49	392	28	93.3
17	485	427	20	38	403	24	94.4
18	477	424	25	28	400	24	94.3
19	501	443	27	31	425	18	95.9
20	446	394	24	28	383	11	97.2
21	475	430	27	18	419	11	97.4

(出典：キャリア支援センター会議報告)

資料 A-1-1-③ 平成 19～21 年度 教員免許取得学生数

学部	人文学部			教育学部			工学部			生物資源学部		
	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21
教員免許全体	50	28	31	168	182	213	75	34	22	50	31	30
小学校				138	154	196						
中学校	26	10	13	123	151	200						
高等学校	46	25	27	101	134	160	75	34	22	50	31	30
特別支援学校				14	11	16						
幼稚園				68	70	65						
司書教諭	0	1		37	30	40						

大学院	人文社会科学 研究科			教育学研究科			工学研究科			生物資源学研究科		
	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21	H19	H20	H21
教員免許全体	1	2	1	32	25	20	18	17	9	6	3	3
小学校				16	13	10						
中学校	1		1	25	19	17						
高等学校	1	2	1	22	15	15	18	17	9	6	3	3
特別支援学校					1							
幼稚園				4	2	2						
司書教諭												

(出典：各研究科、センターの調査)

資料 A-1-1-④ 医師、看護師、助産師、保健師 国家試験合格率

年度	合格率 (%)			
	医師	看護師	助産師	保健師
16	91.3	97.3	100.0	85.9
17	89.3	96.1	100.0	88.2
18	93.6	97.4	100.0	98.8
19	96.2	96.4	100.0	92.4
20	93.8	98.7	100.0	97.7
21	94.3	97.6	60.0	89.1

(出典：医学部資料)

計画 1-2 「感じる力」の中核を問題発見力、「考える力」の中核を主体的・批判的・論理的思考力、「生きる力」の中核を実践的問題解決能力ととらえるなど、本学独自の修学達成度評価方法を作成し、教育成果の検証を進める。」に係る状況

高等教育創造開発センターが核となって、修学達成度評価、教育満足度調査、卒業（修了）生や就職先事業所のアンケート、学生の授業改善アンケート等を実施するとともに、教育に関する各種の評価方法の開発と検証を行っている（資料 A-1-2-①, ②）。

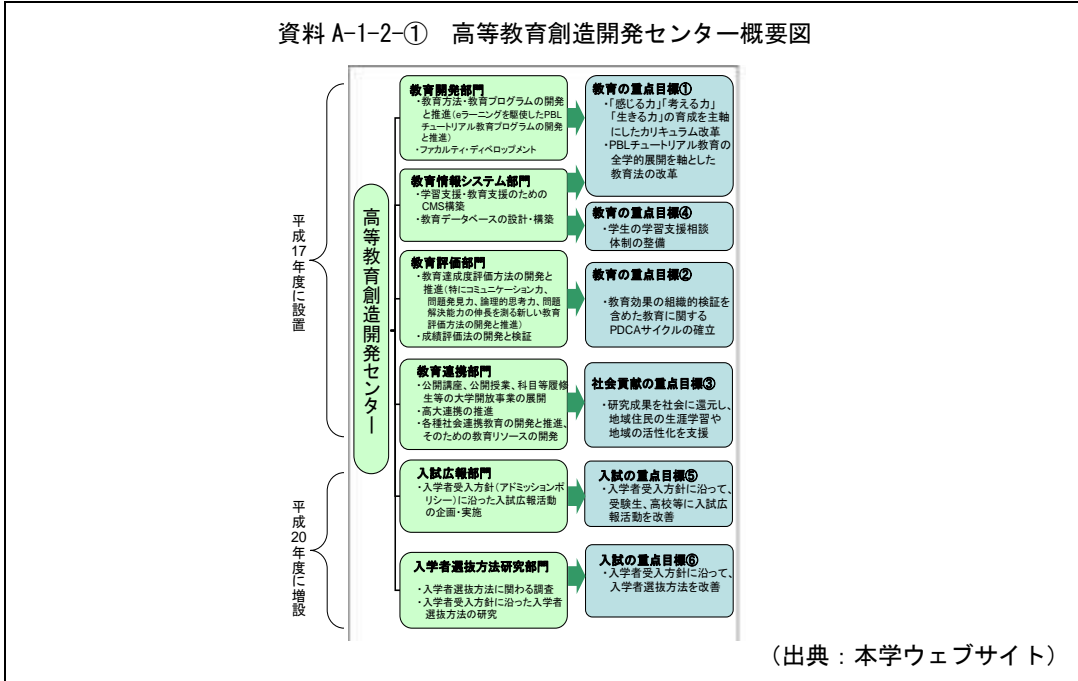
本学の目的に掲げる「4つの力」は、大学教育全体を通して発達し、行動の総体として発揮されて、しかも要素の多くは個人に内在するものであって、ペーパーテストのようなもので集約的・競争的に測定することが不可能な力である。そのため本学では、人間発達科学研究の成果を活用し、この力に係る修学達成度を自己の省察を通して測定する評価手法として「修学達成度評価」を開発した（資料 A-1-2-③）。評価対象は、共通教育及び専門教育、学部・学年別の全学生であり、平成 19 年度には学生がウェブサイトを通じて、アンケート入力から評定結果のフィードバックができるオンラインシステムに改善している（資料 A-1-2-④）。さらに平成 21 年度には、特別教育研究経費（約 7500 万円）を獲得し、初年次学生を対象とした「4つの力」スタートアップセミナーの開発・開設と併せ、e ポートフォリオシステムを核としたシステムへと機能を高めた（資料 A-1-2-⑥）。これにより、一般的には初年次学生を対象とした修学達成度評価では、入学直後の期待度は高いものの秋期時点では低下する傾向がある。本学においても、学生は大学での学びが進むにつれて、提供する教育と教育目標とのギャップを感じ、大学の教育への期待度は低下する傾向にあったが、本評価システムのバージョンアップによって、「4つの力」の修得に対する期待度の低下が大幅に抑制された（資料 A-1-2-⑦）。

また、学部・研究科でも、共通教育の英語教育において TOEIC IP を活用した実践英語能力の評価、医学科の CBT（Computer-Based Test）や OSCE（Objective Structured Clinical Examination）の活用など、教育成果の検証が進められており、それぞれ教育の成果が上がっている（資料 A-1-2-⑤）。

これらに加え、環境・教員養成・医療等の分野において独自の教育成果を高めるため、多様な教育プログラムを展開しており、これらが質の高い大学教育推進プログラム（平成 20 年度、21 年度）に採択されるなど、本学の教育活動に対して高い評価が得られている（資料 A-1-2-⑧）。特に、環境教育においては、「環境 I S O 学生委員会」の学生 4 名が、COP15（国連気候変動枠組み条約 15 回締約国会議・平成 21 年 12 月 7 日－18 日・コペンハーゲン）に参加し、世界 14 大学の教員・学生による国際環境ワークショップにおいて、環境教育や環境活動に関する討論を行っており、大きな教育成果を上げた（資料 A-1-2-⑨）。

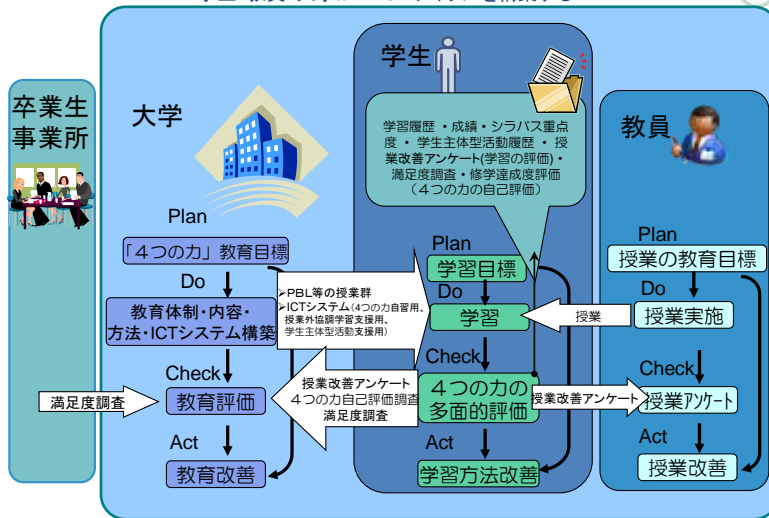
これらの取組により、平成 21 年度の修学達成度評価結果では、「4つの力」はいずれも約 0.6 と、中点 0.5 をかなり上回る達成度を得ているとともに、調査開始後の 3 年間で 0.03 伸長しており、目標に沿った教育の成果が得られている（別添資料 1）。

資料 A-1-2-① 高等教育創造開発センター概要図



資料 A-1-2-② 三重大学の教育評価システム

三重大学の教育評価システムの全容
～ 学生・教員・大学がPDCAサイクルを構築する ～



学年ごとの調査項目

4月	7月	10月	12月	1月	7月	10月	12月	1月	7月	10月	12月	1月	7月	10月	12月	1月	3月
授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート	授業改善アンケート
満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査	満足度調査
授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価	授業達成度評価
学生	学生	学生	学生	学生	学生	学生	学生	学生	学生	学生	学生	学生	学生	学生	学生	学生	学生
オリエンテーションセミナー	4つの力 対応授業・学生主体型活動																
PBLセミナー	学部専門科目PBL授業																
1年次	2年次			3年次	4年次												

(出典：学務部資料)

資料 A-1-2-③ 「感じる力」「考える力」「生きる力」「コミュニケーション力」の修得について

「4つの力」の測定の課題と測定法開発のポイント

「4つの力」の特徴
⇒ 測定の課題

- 大学教育の全体を通して発達し、行動の総体として発揮するもの
- また、要素の多くは人の心に内在するもの ⇒ 試験のような形で、集約的・競争的に測定することは不可能 ⇒ 如何にして心を測定するのか？

一般的な方法と
問題点

- 例えば、「リーダーシップがある」等の思い付きで定めた設問に対して、(あてはまる、あてはまらない)のような回答を求めるアンケート調査
- 【問題点1】 判断基準の個人差が大きく、測定誤差が大。
- 【問題点2】 **潜在力**(capacity)と**顕在力**(実行力、capability)の測定不能。

本学における
「4つの力」測定法
開発のポイント

- 基本方針1： 心理的なものだけでなく、実行力も測定
- 基本方針2： 心理学的研究成果の駆使： 十分な項目の選定 ⇒ 統計的意味をもち、有効な項目を抽出 + 下位概念からの積み上げで + 複数項目で情報統合も！ ⇒ 高い信頼性(・: 関連データは高い整合性)
- 「感じる力」： **動機づけ**が重要(・: 学習行動に反映 計画を立てる、他者に支援を求める、学習環境を整える、本やビデオを見る。。。) ← 下位概念の **期待要因** × **価値要因** × **社会的要因** に注目
- 「考える力」： **潜在力** ⇔ **態度・志向性**、**顕在力** ⇔ **経験(行動頻度)**
- 「コミュ…力」： **潜在力** ⇔ **態度・自信**、**顕在力** ⇔ **経験(行動頻度)**
- 「生きる力」： **総合力**

(出典：三重大学教育実践センター紀要、第 26 号ほかの資料を編集)

資料 A-1-2-④ 成長の過程を振り返ることができるウェブ修学達成度評価システム(「感じる力」の例)

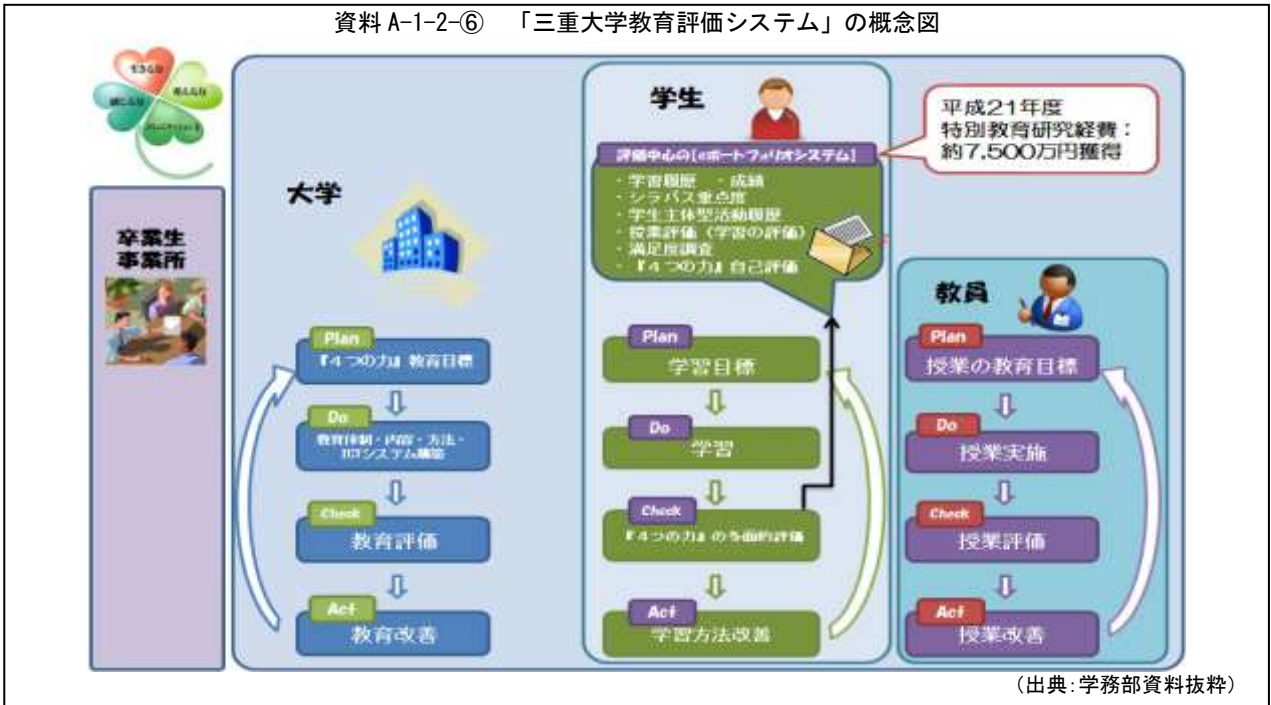


資料 A-1-2-⑤ 学部等での教育成果の検証例

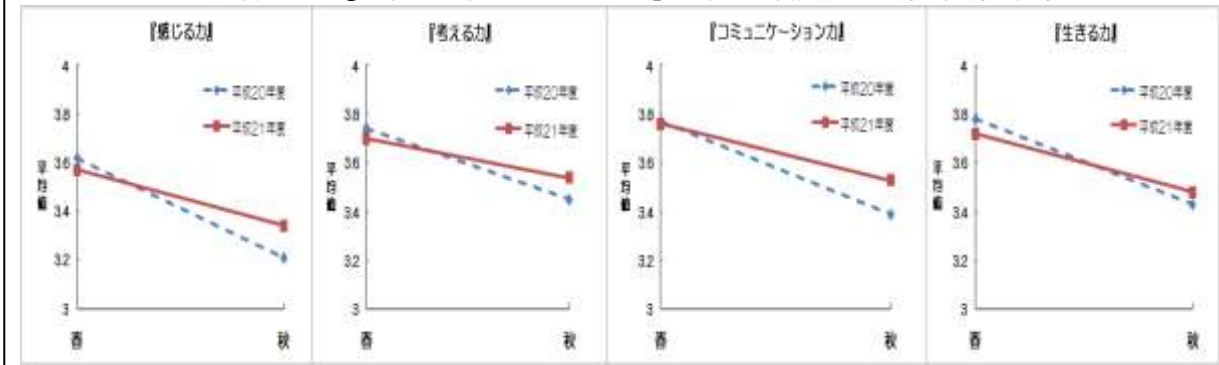
実施主体	検証例
共通教育	平成 17 年度から TOEIC IP のスコアに基づく実践英語能力の評価
医学部医学科	全国共用試験 CBT (Computer-Based Test) による知識レベル、解釈能力、問題解決能力の評価や OSCE (Objective Structured Clinical Examination) による技能・態度の評価
工学研究科 生物資源学研究科	専門英語の充実に対する教育成果の検証方法として国際会議発表、英語論文作成を成績評価に反映

(出典：各学部資料)

資料 A-1-2-⑥ 「三重大学教育評価システム」の概念図



資料 A-1-2-⑦ 初年次学生の「4つの力」修学達成度評価（春期・秋期）結果



資料 A-1-2-⑧ 「文部科学省各種 GP プログラム」選定取組一覧表

採択年度	教育の質向上に向けた 大学教育改革の取組	取組代表者	取組名称	採択金額
20	質の高い大学教育推進プログラム	朴 恵淑	三重大ブランドの環境人材養成プログラム	57,600 千円
	大学院教育改革支援プログラム	駒田 美弘	国際推薦制度による留学生教育の実質化	61,083 千円
21	大学教育・学生支援推進事業【テーマA】 大学教育推進プログラム	後藤 太郎	隣接学校園との連携を核とした教育モデル	41,000 千円
	大学教育・学生支援推進事業【テーマA】 大学教育推進プログラム	堀 浩樹	保健医療の国際化に対応する医学教育	65,850 千円

（出典：学務部資料抜粋）

資料 A-1-2-⑨ 「国際環境インターンシップ」の例
— 国連気候変動枠組み条約 15 回締約国会議（COP15）への参加 —

- ・場 所：デンマーク・コペンハーゲン
- ・日 程：平成 21 年 12 月 7 日～18 日
- ・参加者：4 名（医学部・生物資源学部・人文学部）

- ※ 参加者の渡航費用は全額負担し、単位（2 単位）を認定した
- ※ 国際環境インターンシップの例として、他に韓国の 16 の企業（三星、現代、LG など）や団体、NPO 法人（韓国環境教育推進連合など）、国連関連機関（ユネスコ、国連生物多様性条約など）に広がっている。



（出典：三重大ブランドの環境人材養成プログラムウェブサイトより）

計画1-3「本学が提供する教育に対する学生の満足度および学生を受け入れる社会の評価を測定する方法を工夫し、経年的に調査する。その他、可能なところでは、JABEEなどの国際標準や内外の他大学との比較などを通して、本学の教育水準を検証する。」に係る状況

平成16年度以降、毎年、教育に対する学生の満足度を的確に測るため、全ての大学院生と学部生を対象とした「教育に対する学生の満足度調査」を行っている（別添資料2、3、4）。また、本学の教育が社会のニーズに適応しているかを検証するため、卒業生・修了生及びその就職先事業所等を対象とした「本学の教育についての卒業生・修了生及び受入れ事業所等へのアンケート調査」を実施している（別添資料5、6）。これらの報告書は本学ウェブサイトで公開し、各学部教務委員会、大学院委員会等で点検・評価し、教育改善に活用している。そのほか、平成17年度には、工学部と生物資源学部の特定の学科や講座において、当該学科・講座と全学共通の教育、さらには学生が修得した知識・スキル・態度などが国際的水準を満たしているとして、日本技術者認定機構（JABEE）の認定を受けている（資料A-1-3-①）。

これらの取組に対して、学生・卒業生・企業等への教育満足度調査においては、本学の教育に対する高い満足度が得られており、教育活動の成果が示された（別添資料2、3、4、5、6）。また、共通教育の実践英語教育では、TOEIC IPの平均スコアが入学直後から1年後の平均上昇度54～61へと大幅に上昇した。これらのことから、向上度と達成度の両面で十分に高いことが検証されており、教育活動の成果が上がっている（資料A-1-3-②）。

資料A-1-3-① 日本技術者認定機構（JABEE）の認定

	工学部	生物資源学部
認定学科、講座 (認定年度)	機械工学科（平成17年度） 建築学科（平成20年度） 電気電子工学科（平成21年）	生物圏生命科学科（平成17年度） 共生環境学科 地域保全工学講座（平成17年度）

(出典：工学部及び生物資源学部からの聞き取り調査)

資料A-1-3-② 【平成19年度1年生】 英語 TOEIC IPにおける平均スコア等

	入学者数 (人)	TOEIC IP 平均スコア (点)		平均スコア上昇量 (点)
		平成19年4月 プレースメント	平成20年1月 IP	
1年生全体	1,140	418	473	55
人文学部	278	446	515	69
文化学科	108	458	525	67
社会科学科	170	438	509	71
医学部	184	520	532	12
医学科	104	595	630	35
看護学科	80	421	467	46
工学部	420	372	433	61
生物資源学部	258	391	465	74

※4月プレースメントと1月IP（600点申告を含む）の受験者数は異なる。

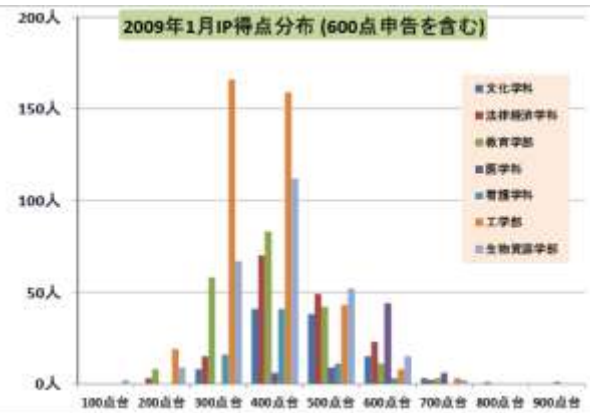
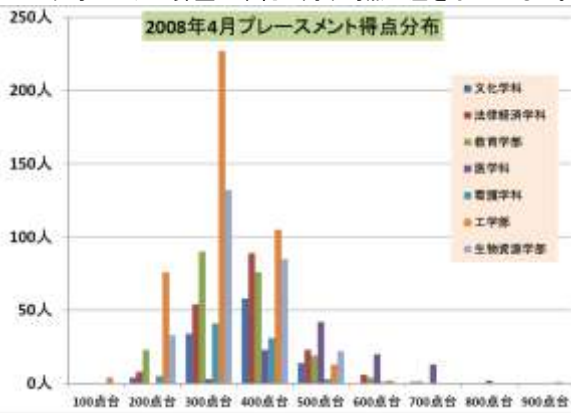
平均スコア上昇量は単純に両平均点の差を示したもの。



資料 A-1-3-② 【平成 20 年度 1 年生】 英語 TOEIC IP における平均スコア等

	入学者数 (人)	TOEIC IP 平均スコア (点)		平均スコア上昇量 (点)
		平成 20 年 4 月 プレースメント	平成 21 年 1 月 IP	
1 年生全体	1,406	402	456	54
人文学部	294	429	504	75
文化学科	111	426	513	87
法律経済学科	183	430	498	68
教育学部	214	395	448	53
医学部	192	496	528	32
医学科	110	575	618	43
看護学科	82	397	445	48
工学部	432	361	409	48
生物資源学部	274	381	444	63

※ 4 月プレースメントと 1 月 IP (600 点申告を含む) の受験者数は異なる。
平均スコア上昇量は単純に両平均点の差を示したものの。

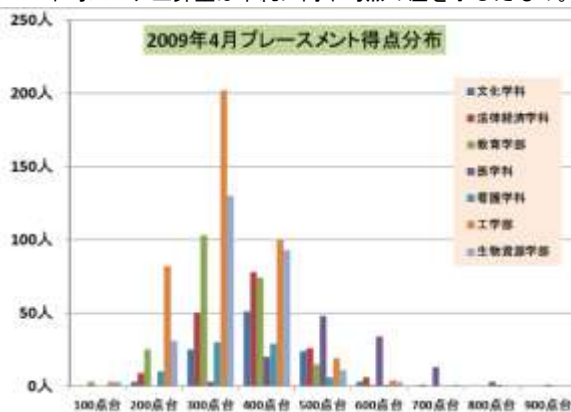


(出典：英語分委会)

資料 A-1-3-② 【平成 21 年度 1 年生】 英語 TOEIC IP における平均スコア等

	入学者数 (人)	TOEIC IP 平均スコア (点)		平均スコア上昇量 (点)
		平成 21 年 4 月 プレースメント	平成 22 年 1 月 IP	
1 年生全体	1,388	406	467	61
人文学部	277	438	519	81
文化学科	106	443	524	81
法律経済学科	171	434	517	83
教育学部	221	381	455	74
医学部	203	512	536	24
医学科	123	584	620	36
看護学科	80	398	464	66
工学部	414	362	424	62
生物資源学部	273	381	452	71

※ 4 月プレースメントと 1 月 IP (600 点申告を含む) の受験者数は異なる。
平均スコア上昇量は単純に両平均点の差を示したものの。



(出典：英語分委会)

計画1-4「教育成果の検証に基づき、必要に応じて教育カリキュラムや教育指導方法を改善する。」に係る状況

全学的な取組として、高等教育創造開発センターの教育評価部門による学生の満足度調査や、卒業生（修了生）と就職先事業所等への大学教育についてのアンケート調査等を活かして、全学教務委員会等において教育課程、教育指導方法を改善している。そのほか、各教員が教育指導方法を検証できるよう、学生による授業評価を全学統一のフォーマットによって「授業改善のためのアンケート」を実施している。

各教員は授業評価等をベースに改善方策を検討し、次年度の「三重大学ウェブシラバス」の「授業改善の工夫」欄に記載し、学生に対して提案するシステムになっている。平成19年度の学士課程教育では、1634科目の授業で、学生とのコミュニケーション改善、授業方法・教材提示の工夫など、授業改善への取組をシラバスに掲載している(資料A-1-4-①)。

また、各学部・研究科では、各種アンケート調査や社会的ニーズなどを検証し、独自の教育プログラムを開発・実施している(資料A-1-4-②)。

これらの取組に対して、特色ある大学教育支援プログラムへの採択や、学生の満足度調査「23.シラバスの有用性」などで高い評価が得られており、活動の成果が上がっている(別添資料2)。

資料A-1-4-① 授業改善アンケートに基づく各教員の改善事例

	改善事例
授業方法・教材提示の工夫	Power Point の字が小さいとの指摘があり、次年度は字を大きくするようにする。
	標本などを用いて、より深く、具体的イメージを持って理解できるよう努める。
	用語解説に注意し、わかりやすく説明する。
	毎時間のリフラクションシートにより、理解状況を把握し、シートに書かれた質問に関して、個々に答えるとともに、多い質問に関しては、次の講義のはじめに解説するようにする。
教材・学習内容の工夫・充実	実施した小テストの解答、出題意図を講義毎に示すことにより学習成果のフォローアップを行う。
	授業内容を厳選し、十分な時間を取り、演習問題などを交えながら、理解が深まるよう努める。
	数学や物理が苦手な学生が理解できるよう、基礎事項も含めて解説する。講義中に随時、質疑のための時間を設ける。
学生とのコミュニケーション改善	授業毎に学生から疑問点・質問などを収集し、次回授業の冒頭に回答・解説する。
	各テーマ実習の最終回にディスカッションとアンケート調査を行い、実習における改善すべき点があれば次のテーマの実習或いは今後の授業改善を図る。
	TA をより活用し、同時並行で複数の実験を行い、少人数(5~6名)の班ごとに実験が行えるようにする。自習およびレポート作成のために、関連英語キーワード、データシート、関連資料などを Moodle に上げておく。
自己学習の促進	小試験の比率が高いため、不定期ではなく毎回実施することとした。
授業環境の改善	実験装置の改修と改良、実験しやすい環境の整備。実験内容の変更および実験マニュアルの改版等を行う。

(出典：生物資源学部の事例から抜粋)

資料 A-1-4-② 教育プログラムの実施状況 【学部実施分】

プログラム名（概要）	担当組織等
①全学的な知的財産創出プログラムの展開 （知財マインドの高揚と高度で専門的な知的財産教育）	共通教育
②社会のニーズに則した人間性豊かな医師養成 （地域社会に貢献する医療人の育成）	医学部医学科
③海外医学部と連携した臨床医学教育 （開発途上国等の海外医学部における診療参加型臨床実習を通じた国際社会に貢献できる医療人の育成）	医学部医学科
④教育実践力の育成と学校・地域の活性化 （入学当初から教職を意識し、動機を高め、実践指導力の形成を目指した人材の育成）	教育学部教員養成課程
⑤三重大ブランドの環境人材養成プログラム （多様化する環境問題の改善に貢献できる環境スペシャリスト養成をめざした三重大モデルの構築と運営）	人文学部
⑥隣接学校園との連携を核とした教育モデル （多様な教育課題に対応できる質の高い教員の養成）	教育学部
⑦保健医療の国際化に対応する医学教育 （教育環境の国際化と実践的語学教育を通じて新しい時代の医療を実践できる医師を養成）	医学部医学科
⑧教育目標の「4つの力」を育成する取組 （学生による自己評価アンケートシステムの充実、eラーニングとeポートフォリオシステムの構築、4つの力を重点的に育成する科目の導入、シラバス・授業評価・満足度調査の関連付けにより、教育目標である「4つの力」の学習成果を保証する体制を構築）	高等教育創造開発センター

* 上記の各プログラムは下記の事業等に採択されて推進している。

- ①現代的教育ニーズ取組支援プログラム（平成 16～19 年度）
- ②特色ある大学教育支援プログラム（平成 16～19 年度）
- ③特色ある大学教育支援プログラム（平成 18～21 年度）
- ④現代的教育ニーズ取組支援プログラム（平成 18～21 年度）
- ⑤質の高い大学教育推進プログラム（平成 20～22 年度）
- ⑥大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム（平成 21～23 年度）
- ⑦大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム（平成 21～23 年度）
- ⑧特別教育研究経費（教育改革）、幅広い職業人の養成や教養教育機能の充実（平成 22～23 年度）

（出典：学務部資料）

資料 A-1-4-② 教育プログラムの実施状況 【大学院実施分】

プログラム名 (概要)	担当組織等
①高度医学研究者養成プログラム (生命科学分野の教育・研究者育成)	医学系研究科 (生命医科学専攻)
②高度医療人養成プログラム (地域の高度専門医療・看護の指導者の育成)	医学系研究科 (生命医科学専攻)
③高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成 (京都大学、滋賀医科大学、大阪医科大学との共同申請) (がん専門の医療人養成)	医学系研究科 (生命医科学専攻・医科学専攻・看護学専攻)
④メディカル・ビジネス Ph.D.プログラム (地域社会の医療関連分野の企業において活躍できる中核人材の育成に貢献するとともに、国際的にも活躍できるメディカルビジネスエリートの人材の育成)	医学系研究科 (生命医科学専攻)
⑤バイオ・メディカル創業プログラム (バイオ・メディカルの専門知識を持ちビジネス界で活躍できる人材の育成)	医学系研究科 (医科学専攻)
⑥地域中小企業問題解決型 M O T (Management of Technology) 教育プログラム	人文社会科学研究科、工学研究科
⑦多様な産業集積を活かしたイノベーション誘発型技術人材育成プロジェクト	工学研究科
⑧国際推薦制度による留学生教育の実質化 (生体侵襲ダイナミクスの国際的研究者養成)	医学系研究科 (生命医科学専攻)
⑨地域活性化を牽引する地域イノベーション・コアラボの展開 (産業官連携によって「プロジェクト・マネジメントができる研究開発系人材」を養成し、地域社会に) 輩出するための「教育環境」を構築)	地域イノベーション学研究科
⑩人材養成の目的を明確化した大学院教育改革 (博士前期課程に人材養成の目的を明確化した研究領域コースと創成工学コースを設置し、産業界と学生からの多様なニーズに応じた高度専門技術者を育成)	工学研究科

* 上記の各プログラムは下記の事業等に採択されて推進している。

- ①及び②を統合した「地域と時代に応える医学・医療研究者の養成」が魅力ある大学院教育イニシアティブに採択 (平成 18～21 年度)
- ③がんプロフェッショナル養成プラン (平成 19 年度)
- ④メディカルバレー創造的人材育成事業 (三重県)
- ⑤派遣型高度人材育成協同プラン事業「バイオ・メディカル創業プログラム」(平成 17～20 年度)
- ⑥経産省技術経営 (M O T) 人材養成プログラム導入促進事業 (平成 17 年度)
- ⑦経産省産学連携製造中核人材育成事業 (平成 17～18 年度)
- ⑧組織的な大学院教育改革推進プログラム (平成 20～22 年度)
- ⑨特別教育研究経費 (教育改革)、高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実 (平成 21～25 年度)
- ⑩特別教育研究経費 (教育改革)、高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実 (平成 20～22 年度)

(出典：学務部資料)

②中項目 1 の達成状況（「小項目 1」の達成状況）

（達成状況の判断）

目標の達成状況が非常に優れている

（判断理由）

教育成果については、成績評価や卒業状況などの基礎的なデータや、教育目標として掲げた「4つの力」に係る修学達成度の検証結果、TOEIC IP のスコアなどを基に検証している。さらに、教養教育・専門教育の成果を多面的に検証するため、高等教育創造開発センターを設置して、全学的に授業改善のためのアンケート調査を実施するとともに、調査結果を活用した教育指導方法の改善などFD活動を推進している。また、各学部・研究科では、各種アンケート調査や社会的ニーズなどを検証し、独自の教育プログラムを開発・実施している。

これらの取組に対して、特色ある大学教育支援プログラムへの採択をはじめ、学生の満足度調査の結果や TOEIC IP スコアの上昇など活動の成果や効果が得られており、本達成状況と判断する。

③優れた点及び改善を要する点等

（優れた点）

1. 教育目標として掲げた「4つの力」は大学教育全体を通して発達するもので、その因子の多くは個人に内在し、行動の総体として発揮されるため、試験等で集約的・競争的に測定することはできない。これに対して、本学の間人発達科学の研究成果を活用し、この力に係る修学達成度として、潜在能力と顕在能力とを自己の省察を通して測定する評価手法を開発した。それらの評価値の平均は約0.6と、中点0.5をかなり上回る達成度を得ており、調査開始以後、着実に伸長している（計画1－2）。
2. 学生・院生・卒業生・修了生・事業所など、多様な関係者に対して満足度調査を実施して教育水準を検証し、高い評価を得ている。国際的な共通テストである TOEIC IP の平均スコアにより、英語教育の水準が十分に高いことを検証した。また、当該学科のみならず、全学共通的な教育内容・方法・体制、さらには、実際の修了生の教育達成度も審査する JABEE 認証の取得により、国際的教育水準を満足していることを検証した（計画1－3）。
3. 学生の満足度調査や授業改善のアンケートの結果とともに、社会的ニーズなどに対応して、カリキュラムの改定や独自の教育プログラムを開発するなど、継続的な教育指導方法等の改善活動を行っており、卒業・修了率や就職率などで高い値を示すとともに、文部科学省の特色ある大学教育支援プログラムなど各種教育改革プログラムに採択されている（計画1－4）。

（改善を要する点）

該当なし

（特色ある点）

該当なし